

# 資金協力について

2001.10.25

資金協力課

寺村 英信

## 資金協力

### 1. 経済協力の形態

#### (1) 政府開発援助 (ODA)

有償資金協力 (円借款)

大規模経済プロジェクトへの出資等

二国間贈与

1) 無償資金協力

2) 技術協力

国際機関等への出資拠出等

#### (2) その他政府資金 (OOF)

輸出信用

直接投資金融等

国際機関に対する融資等

#### (3) 民間資金 (PF)

輸出信用

直接投資

その他二国間証券投資等

国際機関に対する融資等

その他

## 2 . 日本の資金協力（途上国に対する資金の流れ）

アジア通貨危機の前後、日本から開発途上国に対する資金の流れは大きく変動（96年 399 億ドル、99年 225 億ドル）。

	96	97	98	99
ODA	96	94	107	154
OOF	17	45	123	99
PF	284	193	1	31

（百万ドル）

## 3 . 資金協力の論点

途上国の経済開発

譲許的資金ニーズ - 経済開発か貧困対策か？

民間資金と公的資金の関係

相互補完関係か、独立の関係か？

国際金融機関の役割

最後の貸し手か、自律的な金融機関か？

private sector development への公的関与のあり方

## 円借款制度

### 1. 円借款制度と最近の傾向

年間で、融資承諾額ベースで年間 1 兆円強、実行ベースで 6,000 ~ 9,000 億円程度実施。

近年、リスク対応により回収額は横這い。ODA・円借款制度の見直しに伴い、承諾額も減少傾向。

地域的には、アジア重視（全体の約 8 割）

部門別では、電力・ガス、運輸セクターで約半分。近年では、社会サービスセクターが増加。

近年、タイド借款制度の創設により、タイド供与比率が増加。

### 2. 制度を巡る議論

#### 円借款の意義

「国際社会への貢献」、「外交ツール」、「世界経済との共生」

「貿易黒字の compensate としての ODA」と「国益の追求としての ODA」

#### 開発協力のパラダイムシフトへの対応

BHN、貧困対策、ソフト的支援へのニーズへの対応

有償から無償へのシフトの動き

財政面での持続可能性

行財政改革と制度の見直し

債務救済問題への対応

自助努力支援の理念と debt-trap 問題

援助の効率性向上、貿易歪曲の是正と「国益」の調整

OECD 輸出信用ガイドライン、LLDC アンタイド化勧告

調達ルールの問題

以上